

国連環境計画(UNEP)の衝撃的な報告書(2019.11)

各国が、パリ協定で目標として現在提出している温室効果ガスの排出削減量を達成したとしても、『世界の気温は産業革命前から**3.2度上昇**する』というのだ。つまり現在の各国の削減目標では、大幅な気温上昇は避けられない危機的な事態だという。

仮に、気温を 1.5 度上昇に抑えるためには、**現在年 1.5%ほど増えている排出量を、毎年 7.6%減らす必要があると分析している。**パリ協定では各国に対し、**2020 年 2 月までに、現在提出している削減目標を引き上げたうえでの再提出、もしくは更新することを求めている。**日本は温暖化対策に消極的”国際的な批判も・・・
国連環境計画の報告書では、各国の取り組みに対しても言及していて、日本については

「石炭火力発電所の建設を中止するほか、再生可能エネルギーを利用することで石油の利用を段階的にやめていくこと」